

牛久：学校周辺に見る自然

第1号

ひたち野西近隣公園，牛久自然観察の森

2012年4月14日発行

< 春のチョウ >

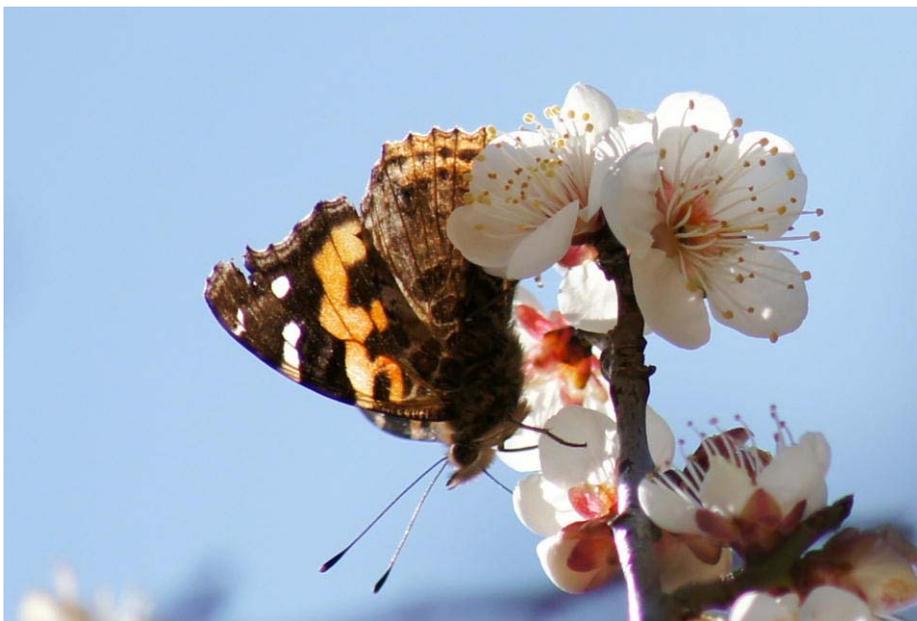
新年度です。今年の入学式は、咲き始めた桜の中で迎えられたようですね。今年度も、私の勤務校のひたち野うしく小、牛久二小、牛久二中を中心に、「学校周辺の自然」を紹介していきたいと思えます。今年度、第1号は、春のチョウについて。昨年度、秋～冬の記事で、動植物の冬ごしのし方を何度か紹介してきましたが、春には、成虫で冬を越したチョウと、さなぎで越冬し春にすぐ羽化したものが見られます。どちらか迷う時は、翅（はね）を観察してみましょう。



今年、茨城県南を歩いていて、一番よく見かけた成虫越冬のチョウが、このキタテハです。翅を閉じたときの白い「C」マークが、このチョウの学名にある「c-aureum（金色のC）」の由来となっています。もう、翅がボロボロです。あとどのくらい生きられるのかわかりませんが、せめて卵を産んで子孫を残せるまでは、がんばって欲しいものです。早春に翅がボロボロのチョウを見つけたら、それは成虫で冬を越したと考えてよいでしょう。



成虫で冬を越したキタテハ。翅はもう、ボロボロ。上：4/10 ひたち野西近隣公園，下2枚：3/16 稲敷市民農園



こちらは、同じタテハチョウ科のアカタテハ。かなり風の強い日だったのですが、しがみつきながらウメの花蜜を吸っていました。近くで写真をとっていても、すぐには逃げなかったので、よほどお腹がすいていたのでしょうね。じゃましてゴメンね。やはりこちらも、翅はボロボロでした。

成虫越冬のアカタテハ。
3/15 牛久自然観察の森。



成虫越冬のルリタテハ。翅を閉じると見つけにくい(左)、開くと美しい瑠璃色が(右)。3/15 牛久自然観察の森。

次は、これもタテハチョウ科でルリタテハ。林の中などで翅を閉じられると、どこにいるのか、まったく分からなくなってしまいます。まさに「自然のかくし絵」といえるでしょう。でも、翅を開くと、右の写真のように美しい瑠璃色(るりいろ)があらわれます。私の好きなチョウの一つです。あまり翅がいたんでるようにみえないのは、隠れるのがうまいからでしょうか？



さなぎで冬を越したモンシロチョウ(左: 4/6 ひたち野西近隣公園, 中: 3/15 牛久自然観察の森)と、スジグロシロチョウ(右: 3/30 牛久自然観察の森)。翅(はね)もつやつやして、きれい。

続いて、さなぎで冬をこすシロチョウ科のモンシロチョウとスジグロシロチョウ。翅はこわれているところもなくきれいで、また、^{うか}羽化してあまり時間がたっていないのか、つやつやして見えました。スジグロシロチョウはよくモンシロチョウと^{まちがえ}間違えられますが、^{すじ}黒っぽい筋が翅のうらに見えます。



最後に、近くで撮れなかったので小さい写真ですが、上2枚が成虫越冬のキタキチョウ。下2枚は幼虫(またはさなぎ)で冬を越すとされているモンキチョウです。黄色いのがオスで白いのがメス(23年度56号参考)。幼虫で冬を越したにしては、少し早すぎる気もしますので、これはさなぎで越冬したものではないかと思っています。【理科支援員: 宮内】



成虫越冬のキタキチョウと、さなぎまたは幼虫で冬ごししたモンキチョウ(どちらも、4/13 ひたち近隣公園野西)。